

拝啓 今年も早や6月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。わが家の玄関わきの軒下では、スイトピーに代わり、朝顔がつるを延ばしています。プランターのペチュニアも元気よく、きれいな花を咲かせています。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集一』の7回目で、「第8講 称名より信仰へ」の8ページ、「真理は、実行してみてもわかる」という項には、次のように書かれています。

「キリスト教の真理というものは人知を超えている。人知をもってしては分からない。これは、そのまま素直にそれを実行するしか手がない。イエスは『幼子の如くならなければ天国へ入れない。』と仰せになった。この間の消息を言う。内村鑑三先生は、『真理は考えただけでは分らない。実行してみたらわかる』と言われた。真理は、それ自身が証明する。天理教のおみきばあさんは『学者と金持ちは後回し』と言った。

私も最近、分相応に称名を実行しまして平安が与えられ、また自分の前に置かれた小さな義務を少しずつ実行させて頂いて、誠に平安な人生を送っております。諸君もどうぞ称名して、平安な人生をお送りになるようにお勧め致します。」

石館守三先生も、同じことをよく言われました。

このひと月は、「夏の坂道」という南原繁先生を主人公とした歴史小説（著者村木嵐、潮出版社）のシンポジウムを南原研究会主催で12月2日に開催しようとして、南原研究会に諮りましたが、予想に反して強い反対に出会い、立ち往生しましたが、6月22日の南原研究会企画委員会で、実行委員会主催でやればよい、ということになり、ほっとしています。色々片付けなければならないことが多くありますが、目の前の義務を優先して取り組んでいけば障害は取り除かれ、順調に進行するようになります。

6月8日（土）、パーキンソン病の友人村野憲政さんなど4人で、葛飾区金町にある水元公園に行き、散策しました。約20万株の菖蒲が見頃でしたし、そばに大きな池があり良い水辺の景観を作っていました。これは、昔の中川の跡が池として残されているようでした。約2000本のメタセコイアの林もあり、森林のなかの散歩は気持ちが落ち着きました。何しろ、端から端まで4キロもある大きな公園で、歩きでがありました。1時まで水元公園を散策し、その後、村野憲政さんと二人で、浦安に米倉安雄さんのお見舞いに行きました。米倉さんに私はずいぶん励まされました。

6月26日（水）霧ヶ峰ハイキングに行きました。梅雨の合間の晴天で、車山（1925m）から、残雪の穂高・槍、立山、白馬などの北アルプスの連峰が良く見えたのは感激でした。又八島湿原奥霧小屋のそばに「山小屋の灯」の歌詞の碑があり、ここで作詞作曲者の米山正夫さんが、歌詞の発想を得たという説に納得しました。ビジターセンターの近くには、「あざみの歌」の碑があり、みんなで歌いました。

これから暑くなりますが、どうぞ皆様も、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

2019年6月27日

山口周三

エンカウターの読者各位